



削り粉をかけて
食べるのが
静岡おでんの特徴
なんですよ

最初は
大やきいもさん
焼き芋はもちろん
おでんがとっても
美味しいんです!



出張!!
はらぺこ新宿
食い道楽!

今日は大学のゼミの
プロジェクトで静岡県の
げたのみずとりさんに
やって来ました!



茶町KINZABURO
さんの茶つぶるは
人気ですぐに
売り切れちゃうんですよ

こんなに沢山種類が
あると迷っちゃうね
どれも美味しい!

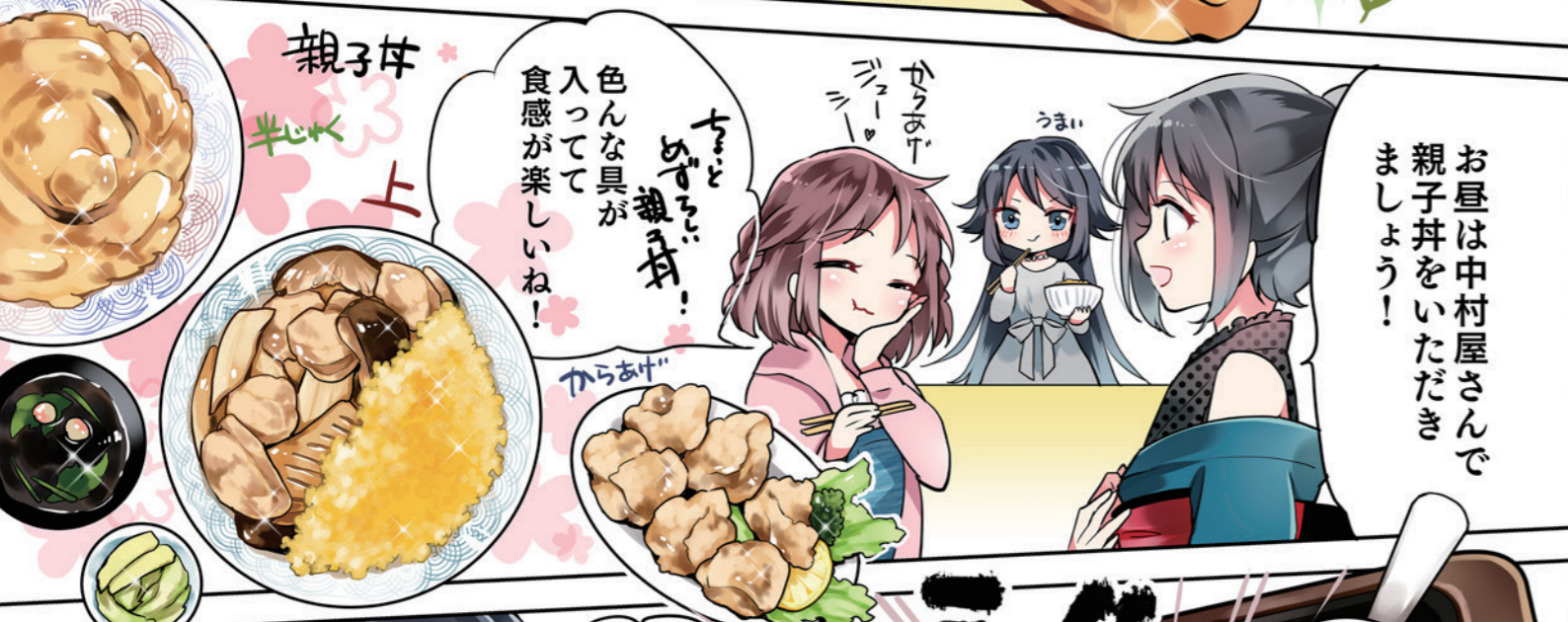


静岡へ!!
はじめて
まして!

今日は私が
一日お二人を
ご案内しますね

わ...!
綺麗な
お姉さん...!
よろしく
お願いします

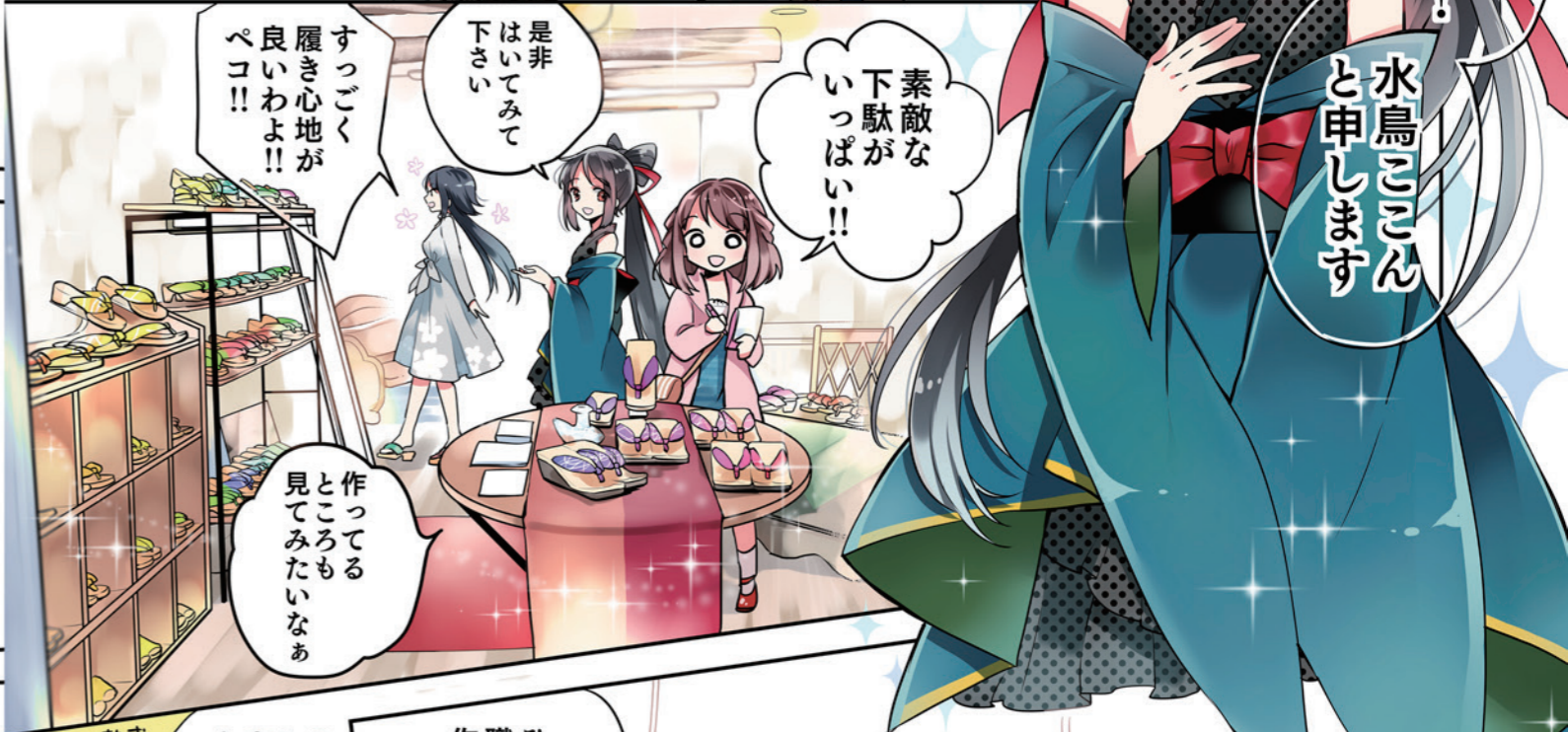
こちらが
みずとりの
シヨールームに
なります



お昼は中村屋さんで
親子丼をいただき
ましょう!

色んな具が
入ってて
食感が楽しいね!

親子丼



水鳥ここん
と申します

素敵な
下駄が
いっぱい!!

是非
はいてみて
下さい

すっごく
履き心地が
良いわよ!!
ペコ!!

作ってる
ところも
見てみたいなあ



最後は
ARIRYOSHII
さんでステイキを
頂くわよ!
柔らかくて
美味しい!!
いくらでも
食べられちゃうわ

360g

あれ?
ここんさんは?



こちらが下駄の
工場になります

ひとつひとつ
職人さんが手作業で
作ってるのね!!!

そろそろ
お腹が
空いて
きませんか?

空
きました!!

「はらぺこ新宿食い道楽」と (株)水鳥工業との夢のコラボ!

下駄は日本の風土に合った美しい文化であり、同社の"世界中の方にもっと下駄を知ってほしい"との願いから、本学との連携により、自社商品の認知度・イメージアップを商品キャラクターのデザインとマンガ制作で目指します。本学では、コンテンツデザイン領域デザイン表現研究室の渡邊哲意准教授と大学院生、学部生がこの協定に参画します。



水鳥工業の工場の様子。職人さんが一つ一つ手作業で下駄を作っています。

製作の打ち合わせの様子。

数種類のポーズ案の中からメインで使用するキャラクターのポーズを決定しています。

ギフトショー



水鳥ここんのモデルとなった下駄「KOKON」。



沢山の素敵な下駄が展示されていました。



ギフトショーにて、げたのみずとりブース。



ギフトショーで実際に配布されたポストカード。



左から島田さん、和田さん、渡邊准教授。この日がキャラクターの初お披露目でした。



「KOKON」と同じURUSHIシリーズの下駄。



宝塚大学大学院
メディア・造形研究科 修士課程
和田歩美 さん

愛される子を作ろうと思った

キャラをつくるときに一番考えたのは、今回の「KOKON」というフラッグシップモデルのイメージを壊さずに絵を描くことでした。値段的なこと、水鳥工業の下駄のイメージがあるので、そこも考慮しないといけない。清楚でだけど子供っぽくなりすぎないイメージ。いろいろなパターンを出して、幅広い人に愛されるキャラにしよう。先方からの要望は「下駄が美しく見えて、可愛らしく見えること」。顔だけでも10パターンぐらい、服装もかなりのパターンを出しました。各パーツで考えて、最終的に集約させてできたのが「水鳥ここん」です。スカート丈の長さ、服の配色、単調に見えないようなアシンメトリーの構図、水鳥工業のイメージカラー「赤」をポイントで入れたりと渾身のキャラクターを作ることができました。



コンテンツデザイン領域
デザイン表現研究室
渡邊哲意 准教授

漫画の良さを立証したい

最初、静岡で「おとぎちゃん」という刃物屋さんが擬人化プロジェクトをつかってキャラクターをつくっているのを知りました。静岡ではさらに、「だもんで5」というイケメンキャラで観光PRやったりして。ぼくも新宿の歌舞伎町でそういったことをやっていたので流れはわかります。今回の話をもらったときにキャラをつくって終わりじゃなくて、あらゆるメディアを使って発信していくことがコンテンツデザインだと思いました。キャラを描くだけでなく、漫画もいいな、とも思ったり。大学院の研究的にも、キャラが描かれてから社会にどう作用するかも研究材料になると思いました。そこで漫画の良さも立証したい。そんな想いがあって、今回企業としっかり連携を組むことができましたし、そういった動きは前代未聞だったんです。



「KOKON」イメージキャラクター
水鳥ここん



株式会社水鳥工業
企画・営業
島田文美 さん

既成概念にとらわれない下駄屋を目指して

渡邊先生は宝塚大学在学時代の恩師で、学生時代からお世話になっていました。卒業後、一社を経て地元静岡で80年の歴史がある下駄屋に就職して、企画営業を担当しています。今静岡では萌えキャラが多く存在して、企業もそれをPR活動にしているケースが多いです。弊社も若年層と海外に向けて、なにに仕掛けていこうと思ったのが今回の宝塚大学とのコラボ企画の発端です。宝塚大学には絵が描ける漫画を描ける人材が多くいて、今回は和田さんにお願いしました。単純に水鳥工業の看板娘をつくるより、ある商品のキャラクターを擬人化して出て来る方がストーリーが付きやすいと思い、今回漆塗りを施したフラッグシップモデル「KOKON」を採用しました。20万円する高価な下駄です。会津若松の漆メーカーさんをお願いし、日本の伝統文化を扱える会社なんだというPRと、フラッグシップをフックに商品を見てもらえる可能性を作りたいかったです。



mizutori七間町ショールーム
(静岡市葵区七間町)



ゆったりとした空間で実際に下駄を履いてみることも出来ます!

株式会社 水鳥工業 (ミズトリコウギョウ)

「心地よく生きる。」
昭和12年創業からずっと静岡市の地場産業である「はきもの作り」に携わってきました。履き心地の良い下駄づくりから、皆様の健康的な毎日と心はずむ暮らしに役かうことが出来たら嬉しいです。

〒420-0876
静岡市葵区平和1丁目18番22号
TEL 054-271-6787